

平成30年度
九重町学力向上アクションプラン等

平成30年3月
九重町教育委員会

平成30年度九重町学力向上アクションプラン等

九重町教育委員会では、平成30年度九重町学力向上アクションプラン等を作成しました。本プランに基づき平成30年度の取組を行っていきます。

もくじ

I 学力向上アクションプラン	・・・・・・・・	2
II 体力向上アクションプラン	・・・・・・・・	6
III 学校組織力向上計画	・・・・・・・・	10

I 学力向上アクションプラン

1 九重町児童・生徒の学力の状況および課題

(1) 学力調査の結果（平均正答率）

ア 平成29年度 全国学力・学習状況調査 ※色つきは全国を下回ったもの

教科	小6・国		小6・算	
	A知識	B活用	A知識	B活用
市町村	76.0	57.0	80.0	47.0
大分県	76	58	81	46
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

* 中学校については町内1校であるので掲載しない。(国語・数学を実施)

イ 平成29年度 大分県学力定着状況調査 ※色つきは偏差値50を下回ったもの

教科	小5・国		小5・算		小5・理	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
市町村	52.6	49.3	51.4	50.2	50.6	50.1
大分県	51.5	51.1	51.5	51.7	51.9	51.2

* 中学校については町内1校であるので掲載しない。(国語・社会・数学・理科・英語を実施)

(2) 平成29年度の目標及び指標・達成状況

	全国学力学習調査において、全ての教科で全国平均を越える。	
	達成状況	(小学校) 国語：知識 A、算数：知識 A・活用 B で達成【3/4】
	*未達成	(中学校) 国語：知識 A・活用 B、数学：知識 A で達成【3/4】
1	全ての教科において、下位層児童・生徒の割合を減少させる。	
	達成状況	(小学校) 国語 A：-2.7、B:+1.5 算数 A:-7.2、B：+1.2
	*おおむね達成	(中学校) 国語 A：-8.2、B:-6.0 数学 A:-2.7、B：+2.9
2	全教職員が B 問題等の「活用する力」を意識した授業実践を行う。	
	達成状況	実施率（小学校95%、中学校44%、合計80%）
	*未達成	
3	授業に意欲的に取り組む児童生徒の割合を増やす。	
	達成状況	(小学校) 肯定的評価で全国を上回った教科（7教科/10教科）
	*未達成	(中学校) 肯定的評価で全国を上回った教科（5教科/13教科）

(3) 平成29年度の取組の問題点

- 教科によって意欲が高まったり、不十分な教科もあつたりしている。全体としては児童生徒が意欲的に取り組む授業改善に課題が残る。
- 活用問題を意識した授業改善の推進については、8割の教員が実施できている。しかし、2割の教員については、十分ではない。
- 授業におけるグループ・ペア活動が実施されているが、内容については課題の設定が明確でなかったり、課題を意識した話し合いができていなかったりする場合もある。したがって、校内において児童生徒の実態にあった適切な課題設定についての研究が必要である。

2 平成30年度に向けての課題

(1) 児童生徒に係わる課題

◇各教科の問題別の課題（偏差値50未満）

<小学校>国語：B活用

<中学校>数学：B活用、理科：活用、英語：知識・活用

◇意識調査による課題

<小学校>算数の「好き」の割合が低い。

<中学校>国語、英語の「好き」の割合が低い。

<小中共通>

- ・全体的に「先生のささえ」について肯定的な答えの割合が低い。
- ・無回答率が低い、誤答の割合が高いため活用問題の正答率が低い。

(2) 学校等における組織的・構造的な課題

◇学校質問紙より課題が見られる項目

- ・教科の全体計画、指導計画作成におけるカリキュラム・マネジメントの視点。
- ・教科の全体計画、指導計画など教育課程における小中の連携。
- ・グループ活動における適切な課題の設定。
- ・授業におけるICT機器の活用。
- ・特別支援教育の視点を活かした指導方法の工夫。

3 平成30年度の目標及び達成指標

(1) 目標

「生きる力」を育むための「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学ぶ意欲や態度」の育成

(2) 重点目標

全国学力学習調査において、全ての教科で全国平均を越える。

(3) 具体的な目標

- ①全ての教科において、下位層児童・生徒の割合を減少させる。
- ②全教職員がB問題等の「活用する力」を意識した授業実践を行う。
- ③授業に意欲的に取り組む児童生徒の割合を増やす。

(4) 達成指標と取組指標

達成指標	取組指標
全国学力学習調査のすべての教科で正答率60%未満の児童生徒の割合を全国以下にする。 (全国比平均-5%)	○夏季休業中に3日以上・放課後を活用した補充学習に5日以上取り組む教員(100%) ○支援を必要とする児童生徒の「個別の指導計画」の作成と学期1回以上の見直しの実施(100%)
全国学力学習調査のすべての教科のB問題で正答率が、全国平均を1ポイント以上越える。	○学校図書館を活用した授業に取り組む教員100% ○全国学力学習調査の誤答分析の実施と活用力を意識した校内研修を年3回以上実施した学校(7/7:100%)
大分県学力定着状況調査の「どれくらい好きか」の問いにおいてすべての教科で全国を上回る。	○単元に1回以上はペア・グループ学習など小集団を活用した授業に取り組む教員100% ○校内研修で課題設定についての研修を学期1回以上実施した学校(7/7:100%) ○観察シートを用いた互見授業を学期1回以上実施した学校(7/7:100%)

4 行動計画

(1) 「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について

①町による学力調査の実施

◇小学校1・2年(国語・算数) 3・4年(国語・算数・理科)

5・6年(国語・算数・理科・社会)

*小学校4年生以上はフォローアップシートを活用した指導の徹底

◇中学校1・2年生(国語・社会・数学・理科・英語)

*フォローアップシートを活用した指導の徹底

②特別支援教育支援員の配置と個別の指導計画の作成と学期1回以上の見直しの実施

③知識構成型ジグソー法を用いたアクティブラーニングについて研修会の実施(年2回)

④単元に1回以上のペア・小グループを活用した授業づくりの推進

⑤学期1回以上の課題設定の在り方について各学校で研修の推進

⑥学力向上支援教員による若年層への指導助言の推進(1校あたり年4回以上5校訪問)

(2) 「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

・生徒による授業評価の推進(学期1回以上)

・中学校におけるタテ持ちの推進

(3) 新学習指導要領の実施に関して(H30年度から実施する内容を踏まえて)

①ALTを活用した研修会の実施

②小学校外国語授業研の実施(各校1回以上)

③町主催小学校外国語研修会の実施

(4) 学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について

①担当者による研修会の実施(H29・12月中に実施済み)

②総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画及び単元配列表等の作成(4月中)

③総合的な学習の時間を活用したこのえ学についての交流会の実施

④総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画及び単元配列表等の作成(5月中)

(5) 地域とともにある学校づくり(コミュニティー・スクール)について

①文部科学省指定「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」を活用した
コミュニティースクールの推進

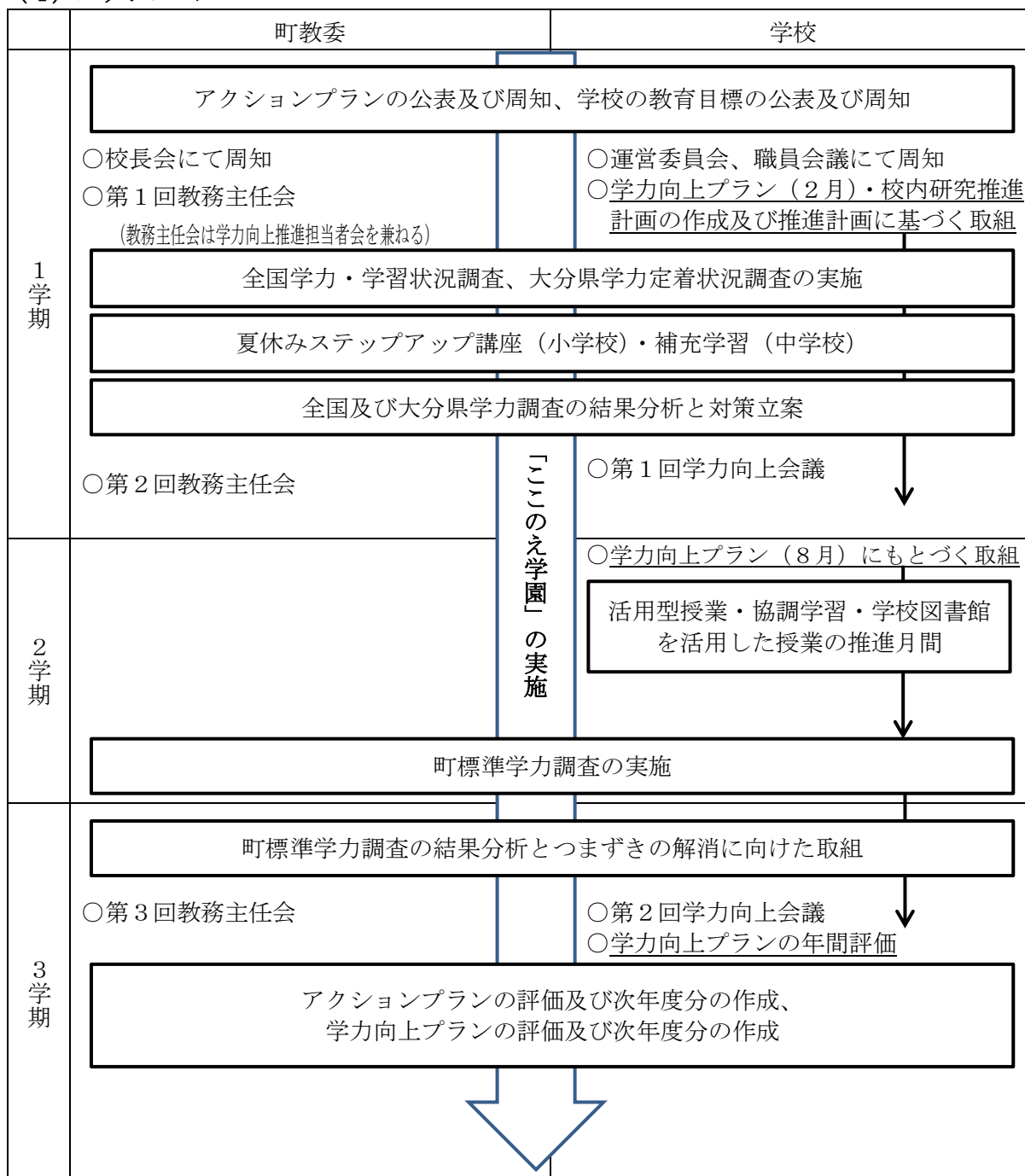
②全小学校合同のコミュニティースクールの導入の推進(校長会等での年3回以上の協議)

③年2回の学校関係者評価委員会の効果的な活用(HPへの掲載)

④中学校コミュニティースクールの充実

⑤このえ学園基本計画の推進

(4) スケジュール



Ⅱ 体力向上アクションプラン

1 九重町児童・生徒の体力・運動能力の状況および課題

(1) 平成29年度体力・運動能力調査の結果

○小学生（1学年8種目×6学年） 合計48種目 男女合計96種目

小学生		全国平均を超えている種目数	達成率	県平均を超えている種目数	達成率
	男子	29種目	60.4%	23種目	47.9%
	女子	36種目	72.9%	27種目	56.3%
	男女	65種目	67.7%	50種目	52.1%

○中学生（1学年8種目×3学年） 合計24種目 男女合計48種目

中学生		全国平均を超えている種目数	達成率	県平均を超えている種目数	達成率
	男子	18種目	75.0%	18種目	75.0%
	女子	15種目	62.5%	16種目	66.7%
	男女	33種目	68.8%	34種目	70.8%

(2) 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果で九重町の特徴的なようす

①総合評価C以上（一般的に平均以上）の児童生徒の割合

- ・小学5年 男子 82.7%（全国 70.3%） 女子 93.4%（全国 76.3%）
- ・中学2年 男子 88.3%（全国 71.8%） 女子 97.0%（全国 87.5%）

②生徒・学校質問紙調査結果の特徴（中学2年）

- ・運動が好きと答えたのは、男子 57.1%、やや好きまで含めると 91.4%、女子 40.0%、やや好きまで含めると 65.7%
- ・高度肥満の生徒は男女ともに 0.0%、中軽度まで加えると男子 16.7%、女子 2.9%

(3) 平成29年度体力・運動能力調査結果で九重町の特徴的なようす

①「ソフト（ハンド）ボール投げ」では、すべての学年において全国を上回った。

②「握力」「立ち幅跳び」が多くの項目で全国を上回った。

③平成28度の課題であった「長座体前屈」は、小学校では10/12と全国を上回った。
しかし、中学校では0/6と全国よりも下回っている。

④平成28度の課題であった「50m走」では、小学校4/12、中学校2/6で全国を上回った。

⑤「反復横跳び」では、中学校6/6に対し、小学校は2/12が上回った。

⑥運動への愛好度の結果

- ・小学生女子と中学生男子は県よりも若干高い結果である。しかし、中学生女子は県と比較して1.4ポイント低い。

(4) 平成29年度取組状況と平成30年度にむけての課題

①児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

- ・小中学校において体育主任を中心とし、平成28年度の体力調査結果の分析を行い、それをもとに学校ごとの課題克服のために取組の計画と実施を行った（1校1実践）。
- ・町教育委員会と各学校が共催でスポーツ鬼ごっこ大会を実施した。（2月実施）
- ・年2回以上の児童生徒対象にスポーツ愛好度調査を学校ごとに行い、実施計画の検証と取組の見直しを行った。
- ・全小学校で体育専科教員を活用し、20時間以上の授業を行い、体育の授業改善を行っている。
- ・中学校においては、生徒同士が教え合う場（グループ活動の積極的な活用）や話し合う場を取り入れた授業を実施した。
- ・HPや広報誌を活用し保護者と連携して生活習慣の改善を進めた。（全学校で実施）

②体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

- ・町教育委員会主催で体育専科教員を活用した体力向上研修会を実施し、教職員の意識高揚を図るとともに、指導力の向上を行った。
- ・特に弱点である「短距離走」「柔軟性」の要素を取り入れた指導方法について研修を行った。
- ・平成29年度当初の校長会で体育主任の役割と一校一実践、専科教員の活用について徹底した。
- ・給食センターで残菜調査を実施し、残菜の少ない学校を表彰するなどの取組を行った。（3校を表彰）
- ・栄養教諭と連携した食育の授業を実施した。
- ・このえ学園6年生集合学習において、体育専科教員が中心となって6年生担任とともに授業を行なった。また、その際に中学校体育教員が授業を参観した。

③平成30年度に向けての課題

- ・全体的に小学生男子が全国平均に達していない種目がある。（未達成：25種目で52.1%）。
- ・小学生では反復横跳び（全国値以上：5/12）、50M走（全国値以上：4/12）、20mシャトルラン（全国値以上：2/12）に課題がある。
- ・中学生では長座体前屈（全国値以上：0/6）、50M走（全国値以上：2/6）に課題がある。
- ・総合評価でD・E判定の割合が小学生男子17.5%・女子14.6%、中学生男子14.6%・女子3.6%である。特に小2・小3・小4男子、中3男子の割合が多い。
- ・中学校の運動部に所属していない生徒の運動時間・習慣を向上させる必要がある。

2 平成30年度の目標

(1) 目標

- ①小学校の体力向上を強化する。
- ②平成29年度体力調査での課題改善に取り組む。
 (小学校) 反復横跳び・50m走 20mシャトルラン
 (中学校) 長座体前屈・50m走
- ③総合評価でD・E判定の割合を減らす。

(2) 児童・生徒の体力・運動能力に関する達成指標と取組指標

達成指標	取組指標
<p>○総合判定でC判定以上の割合を男子85%、女子90%以上にする。</p> <p>○小学校の全国平均に達している種目を70%以上にする。</p> <p>○小学校では反復横跳び・50メートル走・20mシャトルランで全国平均を上回る学年(男女)をそれぞれ67%(8/12)以上にする。</p> <p>○中学校では長座体前屈・50M走で全国平均を上回る学年(男女)を67%(4/6)以上にする。</p>	<p>○体育・保健体育の授業以外で、運動習慣化の確立の取組を行っている学校の割合を7/7にする。</p> <p>○各学校の課題解決に向けた1校1実践の見直しを、体育主任を中心にして学期に1回行う。 ○体育専科教員の指導方法を取り入れた授業実践を年間通して行う。</p> <p>○走力・調整力の指導に重点をおいた研修会を年1回実施し、その参加者が各学校で還元する。</p> <p>○体育の時間に柔軟性・走力を高める運動を取り入れる。</p>

3 行動計画

	町教委の取組	学校の取組
1 学 期	○体育専科教員訪問計画の作成（3月）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○体力向上アクションプラン、体育主任の任務、専科教員の活用についての 周知・徹底</p> <p>○1校1実践の取組の徹底 ・校長会</p> <p style="text-align: right;">・運営委員会、職員会議</p> </div> <p>○1校1実践計画の作成（4月） ○保護者と連携した取組計画の作成（5月） ○体育専科教員訪問指導開始（5月） ○体力・運動能力調査実施 ○保護者と連携した取組開始</p> <p>○1校1実践の見直し（夏期） ・体力調査結果の分析 ・改善策の検討</p>
	○中学校教員による体育の公開授業および体育主任会（6・7月）	
2 学 期	○体力向上に係る研修会（夏期）	○1校1実践の見直し（夏期） ・体力調査結果の分析 ・改善策の検討
3 学 期	○体育専科教員による公開授業	○1校1実践の改善策の取組 ○保護者と連携した取組の見直し
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○指標に沿った課題と成果の把握</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○次年度の計画の作成（アクションプラン、1校1実践）</div>	

Ⅲ 学校組織力向上計画

1 平成29年度の取組状況

(1) 学校評価の状況と成果

- ①校長会、教務主任会、学校訪問等により、下記について指導を行った。
- ・学校評価4点セットの作成において達成指標・取組指標が具体的になるように校長に助言を行った。また、事務所訪問に随行し連携して、学校改善について助言した。
- ・校長会において、九重町小中学校長及び学校支援センター所長人事評価（目標管理）実施方針を提示し、4点セットとの連動をはかった。
- ・町作成「学校評価の手引き」の見直し、4点セットの評価と統一した。また、学校関係者評価と学力向上会議のサイクルを合わせた。

(2) 学校運営体制の状況

- ①教務主任会で目標管理に各種主任が関わるように徹底した。

(3) 学校・家庭・地域の協働の推進

- ①ここのえ学園基本計画に則り、ここのえ学や公民館との連携を進めた。
- ②中学校におけるコミュニティスクールの推進において、文科省 研究指定を受け、生徒が地域活動にボランティアとして役立てるような取組を推進した。
- ③学校関係者評価については、HP や学校通信で公開することで開かれた学校づくりに取り組んだ。

2 平成29年度の成果

(1) 学校評価

- ①学校評価4点セットについて具体的な指数を設定し、全教職員で取り組む体制ができている。
- ②学校評価4点セットと目標管理の連動が進みつつある。
- ③学校関係者評価と学校評価4点セット、学力向上会議を連動させたことで学校改善のサイクルが整いつつある。

(2) 学校運営体制

- ①各種主任が目標管理に関わることで、学校改善が進むと同時に学校評価4点セットと目標管理の連動がはかられつつある。

(3) 学校・家庭・地域の協働の推進

- ①ここのえ学園の推進により、学校と地域との連携が推進できた。
- ②学校評価4点セットに対する家庭・地域の参画意識が高まった。
- ③中学校にコミュニティスクールの推進により、中学生が地域で活躍できる体制が推進できた。
- ④学校関係者評価を公開することで開かれた学校づくりが進んだ。

3 平成30年度に向けての課題

(1) 学校評価について

- ①学校評価4点セットにおいて、わかりやすい指標を設定することで、地域がより関わりやすいような体制を構築する。
- ②学校関係者評価が学校改善により活かされるようにするために関係者の意識を高める必要がある。

(2) 学校運営体制

- ①各主任が職員の目標管理について進捗状況を把握し、指導助言できるような体制づくりが大切である。

(3) 学校・家庭・地域の協働の推進

- ①6小学校によるコミュニティスクールの導入を進める。
- ②中学校のコミュニティスクールを推進することでより、地域との連携を推進する。

4 平成30年度の行動計画および目標

(1) 学校評価の改善

- ①学校評価4点セットにおいて、地域が取り組む指標の設定において教育事務所と連携し、学校訪問等において助言する。(年2回以上)
- ②年2回の学力向上会議に参加し、地域との連携について助言する。(先進地事例等の提示)

(2) 学校運営体制の充実

- ①各校の主任が目標管理について進捗状況の管理ができるように学期に1回分掌会議を設定するように指導する。(進捗状況について学校訪問を通して確認する)

(3) 学校・家庭・地域の協働の推進

- ①コミュニティスクールについて管理職研修会を実施する。
- ②学校、家庭、地域の連携を推進するためにこのえ学園に係る会議を開催する。

(4) 平成29年度 学校組織改善に向けた達成指標及び取組指標

達成指標	取組指標①	取組指標②	達成指標(共通)
○全学校で主任等が目標管理の進捗管理を行う。 ・学校訪問と教務主任会で確認(年3回) ○学校関係者評価を学校運営に活用している学校(7/7) ・年2回の報告の提出	○学期に1回以上分掌で進捗状況を把握するための会議を(年3回以上)開催する。 ・学校訪問と教務主任会で確認(年3回) ○校長会での指導(年2回)	○教務主任会を年3回実施し指導する。 ○教育委員会が学力向上会議等で指導助言をする。(年2回)	学校評価に基づく改善策に関する家庭・地域との協議の実施率 小学校100% 中学校100% (平成29年度は全学校で実施)